【参考：研修スケジュール】

1日目　12月17日（土）		
時間	プログラム	備考
13:00-13:15	□歓迎と主催者の挨拶（5） □スタッフ等の紹介（5） □実務連絡など（5）	
13:15-13:25	□グループワークの説明（5） □グランドルールの説明（5）	
13:25-13:30	休憩（5）	
13:30-13:50	○アイスブレーク（20）	
13:50-14:20	○○自己紹介（30）	
14:20-14:40	○○共通点と相違点について（20）	
14:40-14:45	休憩（5）	
14:45-15:45	○○動機についてのワーク（60）	
15:45-16:15	休憩（30）	
16:15-17:05	○○依頼先と参加者について（50）	
17:05-17:10	休憩（5）	
17:10-18:10	○傾聴と質疑応答（60）	
18:10-18:15	○実務連絡など（5）	
19:00-21:00	夕食と交流会	
21:00-23:00	○スピーチ演習（120）	
2日目　12月18日（日）		
09:00-09:10	○アイスブレーク（10）	
09:10-10:10	○スピーカーの要素Ⅰ(30) ○スピーカーの要素Ⅱ（30）	
10:10-10:30	○スピーカー環境をイメージする（20）	
10:30-10:35	休憩（5）	
10:35-11:15	○○自己開示について（40）	
11:15-11:20	休憩（5）	
11:20-12:20	○○話の組み立て（60）	
12:20-13:20	昼食（60）	
13:20-14:30	□ショートスピーチ（70）	
14:30-14:50	休憩（20）	
14:50-15:50	○振り返り（60）	
15:50-16:20	○アンケート記入（30）	

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）

HIV 感染予防対策の効果に関する研究

分担研究報告書

介入実践のための人材育成

分担研究者：池上千寿子・生島 嗣・兵藤智佳（ぷれいす東京）、
東 優子（大阪府立大学）、徐 淑子（新潟県立看護大学）
研究協力者：野坂祐子（大阪教育大学）、勝又里織・中村美亜（ぷれいす東京）、
牧原信也（エイズ予防財団リサーチレジデント）

研究要旨

一昨年および昨年度に引き続き、HIV 予防対策の効果を目指し、教育的介入を実践する人材を育成するための計 4 日間のセミナーを企画した。3 年目となる本セミナーは、(財) 日本性教育協会と連携し、学校や地域での性教育実践や、若者の性の健康に関する予防介入を行っている教師、保健師、助産師、心理士などを対象としたもので、講義と参加型ワーク形式を用いるものである。講座の内容は、これまで継続的に実施してきた人材育成セミナーの経験と評価から得られた、介入者の抱える課題、ニーズ、困難性などを考慮して再構成されている。本年度の新たな試みとしては、同研究班において開発された教材を用いた模擬授業を取り入れ、より実践的な内容とした。さらに、Living Together のテーマを目指して、HIV 陽性者の手記を活用した朗読ワークなど、支援の現場から立ち上げた新たなワークも開発した。具体的な授業案の提案により、さまざまな現場ですぐに応用可能な内容となることを目指した。セミナーは、全国から集まったさまざまな参加者同士が連携を促進する場としても機能した。

A．人材育成セミナーの目的と概要

介入実践のための人材育成プログラムとして、一昨年および昨年度から継続されているセミナーの内容をさらに改良し、4 回にわたる講座を企画・実施した。

3 年目となる本年度は「性・エイズ教育のための実践セミナー－今日から役立つセクシュアル・ヘルスの実践の取り組み－」と題し、セクシュアル・ヘルスをキィ概念としながら、具体的な性・エイズ教育のためのツールの紹介、授業の体験学習、介入者の個別の性・エイズに対する認識の気づきを目指した。

本セミナーは、過去に NPO ぷれいす東京が行ってきた研究成果や支援実践を反映させたものであり、若者の保健行動やジェンダー、メディアの影響等、実証的データをもとに構成されている。さらに、昨年度に実施したセミナーの評価や反省により、学習の流れや

課題などを再構成した。

セミナーの内容は、国内外でのさまざまなセクシュアル・ヘルスおよび保健行動に関する研究からの知見の共有、性に対する態度の自己覚知や脱感作のほか、本年度は新たな企画として、オリジナル教材ビデオ『Let's CONDOMing』を用いた模擬授業を取り入れた。教材ビデオは、シナリオに関する指導書や副読本もセットになっており、短時間の性・エイズ教育においても役立てられ、現場での利用可能性が高いと考えられるものである。

また、学習方法は一方的な知識の詰め込み型学習ではなく、講師と参加者、および参加者同士の相互的な学習や参加体験型学習を基本とした。内容によって、講義形式、グループワーク、全体ワーク、アクティビティなどを組み合わせている。グループワークでは、ワークシートを開発し、自己覚知を促すことを目指すとともに、教育現場で応用し活用できるものを設定した。さらに、グループワークの実施の際は、ファシリテーターによる介入のもと、グランドルールに基づく安全な環境づくりに努め、参加者のプライバシーや個人情報の扱いにも配慮した。

B．方法

1）コース制プログラムについて

本セミナーは、「1、授業展開コース」と「2、支援と連携コース」の 2 コースからなり、それぞれ全2日間の日程である。コース制プログラムは、本年度より新たに導入したシステムである。従来の「ベーシック編／アドバンス編」の編成を改め、より受講者のニーズや学習目標にマッチしたプログラムを提供できるものにした。コースⅠは「授業展開コース」とし、学級や学校など集団への啓発・教育の方法を具体的に提示した。性教育等の時間枠にあわせて学習内容をセレクトできる「カフェテリア方式」による授業例を提示し、受講者は実際にそれらの授業を体験した。コースⅡは「支援と連携コース」とし、HIVについての個別支援について焦点を絞り、支援に関する実践的なワークを実施した。いずれのコースも、セクシュアル・ヘルスの教育について、さまざまな対象者や規模において活用可能な情報をふんだんに盛り込んだことが特徴である。

2）参加者の募集について

セミナーの実施日は、コース1が 2006 年 1 月 28 日（土）・29 日（日）、コース2が 2006 年 2 月 18 日（土）・19 日（日）であり、いずれも 10 時から 16 時 40 分までとした。会場は、東京都内にある（財）日本性教育協会の研修室である。

対象者は、地域や学校で性教育実践や、若者の性の健康に関する予防介入を行っている教師、保健師、助産師、心理士などである。応募の際は、所属先と立場のほか、これまでに行ってきた性教育実践の有無と内容、本セミナーへ期待していることや実践の際に困っていることを記入してもらい、ニーズに即した内容となるようプログラム構成の参考にしたり、グループ分けの参考とした。

広報は、(財) 日本性教育協会の協力を得て、ホームページへの掲載、メーリングリストやチラシによって案内を送付したほか、対象者がアクセスしやすい情報誌等へ情報を掲載した。毎回30名を定員とし、原則として各コースとも2日間連続受講者を対象とした。コース修了後は、NPOぷれいす東京によるセミナー修了証を授与した。

3) セミナー・プログラム

各コースのテーマとねらいは下記のとおりである。

【1、授業展開コース (2006年1月28日－1月29日)】

おもに、集団への啓発の方法を学ぶことを目的とした。集団へのアプローチとして、ぷれいす東京のオリジナル開発ビデオ『Let's CONDOMing』を用いた模擬授業のほか、HIV陽性者による手記の朗読ワーク、性の価値観を考えるワークなど、「集団」を対象にしたセクシュアル・ヘルスの授業の展開例を紹介し、体験した。

<1日目>

・アイスブレーキング：動物自己紹介、じゃんけんバンク

・講義：セクシュアル・ヘルスとは何か

・ワーク：ビデオ教材を使用した模擬授業 (ディスカッション、シナリオワーク)

<2日目>

・アイスブレーキング：じゃんけんバンク

・講義：ワーク構成・ファシリテーションについて

・ワーク：身近なセクシュア・ヘルスについて、HIV手記リーディング

【2、支援と連携コース (2006年2月18日－2月19日)】

おもに個別や小グループへの啓発の方法を学ぶことを目的とした。若者からのHIV感染や性に関する相談への対応シミュレーション、グループワークを通じ、「個人や小グループ」を対象にしたセクシュアル・ヘルスの向上に向けた支援の実践を学ぶものとした。地域資源連携やプライバシーの扱い方についても実践的に考えられた。

<1日目>

・アイスブレーキング：トレード自己紹介

・ワーク①：性に関する相談支援の課題マップづくり

・講義：社会支援におけるバイスティックの7原則

・ワーク②：高校生の妊娠事例

<2日目>

・アイスブレーキング：リクルート自己紹介

・講義：HIV支援における社会資源

・ワーク (スキット) ①：若者のHIV感染不安事例

・ワーク (スキット) ②：若者のHIV陽性者対応事例

上記のいずれのコースにおいても、最初にセミナーガイダンスにより学習の目的を明確にし、さらにグランドルールについての解説をし、安全な場でワークが実施できるようにした。また、終了時にはふりかえりの時間を設け、個人の体験における気づきを整理するとともに、それを全体で共有することで学習効果を深めた。

また、昼食時は会場にてバイキング方式での食事を用意し、くつろぎながら参加者同士が交流を図れるようにした。

C．人材育成セミナーの成果

まず、今回、多くの新規参加者の申し込みがあったことに加え、過去 2 年間からの継続的な参加者もあり、継続的な学習に対するニーズの高さが伺えた。遠方からの参加者も多く、それぞれが現場で孤軍奮闘しているなかで、連携を促進する場としても機能した。このように遠方からの実践者の参加が多いということを活かし、セミナーのプログラムにおいては受講者にそれぞれの現場での実践を話す時間を設けた。受講者同士の情報交換や情報共有も、本セミナーでの有益な情報として活かされていると考えられた。

こうした参加者自身のもつ資源の豊かさに着目し、セミナーでは自己紹介においても、「動物自己紹介」「トレード自己紹介」「リクルート自己紹介」など、さまざまな観点からの紹介ワークを企画・実施した。通常の自己紹介の内容にとどまらず、人材としての能力や長所をアピールすることができ、受講者同士が具体的なイメージをもって連携について考えることができる。実際に、本セミナーを通じて、遠方の機関同士が支援活動を依頼しあうなどのやりとりもなされたということであった。

今回のセミナーでは、ぷれいす東京が開発した健康教育ビデオ教材 “Let's Condoming” を活用した具体的な実践例を示したことが大きな特徴である。本ビデオは、群像ドラマ仕立ての教材であり、視聴者はピア・モデルによるピアが発信するメッセージに共感することができ、ロール・モデルを見出すことができる。そうしたモデル学習を通じて、セクシュアル・ヘルスについて他者とどのように話せばよいか、どう行動したらよいか、そして何が大切かを学ぶことができる。さらに、科学的知識の学習ではなく、行動や価値観を学習できる。これらの効果は、すでに本研究班の別稿にて検証されている通りである。本セミナーではスタッフが講師役を務めた模擬授業 2 例を提示し、ディスカッションを中心とした授業案と、シナリオ書き換えのワークやロールプレイなど、生徒が楽しみながら安全な性行動を考えられる体験型授業案を紹介した。提示例をそのまま活用することも可能であるが、広く応用が可能であり、さまざまな現場や状況において利用することができる。

また、2 日目は、スタッフが相談場面を寸劇（スキット）で演じ、そのやりとりについて議論するワークを行った。HIV 支援においては、技法を頭で学ぶだけでは活かされないことから、相談場面で生じるさまざまな問題や展開について、臨床的に捉えることをねらいとした。ほかにも、ぷれいす東京刊行『Living Together』の手記リーディングをしなが

ら、HIV とともに生きるさまざまな人々への思いや自分自身の気持ちを話し合う時間をもった。

プログラムに対する参加者の感想には、次のようなものがあった（いずれも参加者の了承を得て掲載している）。感想には、会場の雰囲気へのポジティブな評価やエンパワメントになったという感想のほか、日頃の支援や実践をふりかえることができたり、支援自体の困難さや抱え込まない支援（連携の必要性）を痛感したという気づき、そして実際に現場で活用したいという積極的な意見が挙げられた。また、もう少し長い時間をかけてやりたい、今後も継続的に受講したいなどのニーズも得られた。

＜感想（抜粋）＞　※カッコ内は職業

・時間設定、雰囲気がとても温かくてよかった（無所属）
・相手を支援することの難しさを感じた。支援を（相談者と ※引用者加筆）ともに考えられる立場でいられるよう頑張りたい（保健師）。
・自分の枠をくずしつつ、立ち位置をふり返ることができた（保健師）
・いろいろな立場のいろいろな人の意見を聞くことができ、物事を今までより広い視点で見れるようになったのではないかと思う（看護師）
・たくさんの人と出会えたことがすばらしい財産（保健師）
・自分の知らないこと、偏見、価値観にショックを覚えて、知ることができたのが大きな収穫です（事務）
・自分の考え方やパターンに気づくことができた（保健師）
・ワーク、休み時間にさまざまな職種の方々と触れ合い、話をきくことができたことが、とても貴重な体験になりました（看護士）
・様々な立場のお話が聞けてよかったです。学校現場にいると、狭い世界で、自分が立場に何でも理解していないといけない観念があり、つらかったのですが、このセミナーに参加し、こんな自分でもできることからやっていこうとますます気持ちが強くなりました（養護教諭）
・学校での取り組みのヒント、勇気を持つことができました。自分の立場でできることを改めて考えることができました（養護教諭）
・中学担任は自分のクラスの生徒の問題行動を抱えがちで、日によって重たい指導をしなくてはならない場合が多いのですが、抱え込みすぎないということを改めて学びました（中学校教員）
・ワークショップ形式のセミナーの面白さ、効果を改めて思い知った。ぜひ、今後に役立てていきたい（大学院生）
・もう少し時間がほしい（無所属）

D．考察

今回のセミナーで提示したビデオ教材を用いての授業実践例の提示、および HIV 陽性者

の手記リーディングなど HIV 支援の現場から立ち上げたツールの活用は、性・エイズ教育に携わる者にとって具体的・実践的な内容であり、介入者の日常支援や教育実践に貢献できるものと考えられる。

また、受講者を単なる「学び手」として位置づけるのではなく、実践や経験、課題を持った「人材」であることを尊重し、セミナーにおいて積極的に情報提供をしてもらうとともに、受講者同士の全国規模での連携を図ることができた点は、今回の成果の一つと思われる。

これまでのセミナーからの継続的な参加者も多く、また今後のセミナーへの期待も得られたことから、性・エイズ教育の現場において、こうした人材開発プログラムへのニーズは高いことが伺えた。本セミナーに寄せられた感想からも、多くの実践者がさまざまな現場で孤軍奮闘している実態があり、とくに若者に焦点を絞った具体的な介入方法を身につけたいという要望が高いことが示されている。よって、本セミナーは、そうした現場のニーズに貢献するものであったと同時に、人材開発をする研修先もまた、現場のニーズや困難性をよく理解する必要があることを再確認できた。

E. 結論

HIV 予防対策の効果を目指し、教育的介入を実践する人材を育成するための計 4 日間のセミナーを企画・実施した。セミナーの内容は、これまで継続的に実施してきた人材育成セミナーの経験と評価から得られた介入者の抱える課題、ニーズ、困難性などを考慮して再構成し、さらに本年度の新たな試みとして、同研究班において開発された教材“Let's CONDOMing”を用いた模擬授業を取り入れ、より実践的な内容とした。さらに、Living Together のテーマを目指して、HIV 陽性者の手記を活用した朗読ワークなど、支援の現場から立ち上げた新たなワークも開発した。具体的な授業案の提案により、さまざまな現場ですぐに応用可能な内容となった。また、さまざまなワークや交流の時間を通じて、全国から集まったさまざまな参加者同士が連携を促進する場としても機能することができた。

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書　籍　名（冊子）	出版社名	出版地	出版年	ページ
池上千寿子	—	池上千寿子	行政とNGOの連携を促進するための検討報告書	ぷれいす東京	東京	2006	1-28
ぷれいす東京	—	ぷれいす東京	Living Together ﾘｱﾘﾃｨが変えるもの	ぷれいす東京	東京	2005	1-12
ぷれいす東京	—	ぷれいす東京	“Living Together” KANAGAWA	ぷれいす東京	東京	2005	1-12
ぷれいす東京	—	ぷれいす東京	“Living Together” HOKURIKU	ぷれいす東京	東京	2005	1-12
東 優子	福祉とセクシュアリティ—医療と福祉の谷間に埋没してきた『からだ・性』	葛生栄二郎	人間福祉学への招待　未来をひらく福祉入門	法律文化社	京都	2005	130-167
ぷれいす東京	—	ぷれいす東京	“Living Together Letters”（手紙集）	ぷれいす東京	東京	2004	1-110
ぷれいす東京	—	ぷれいす東京	“Living Together” 2005 PR版	ぷれいす東京	東京	2004	1-11
ぷれいす東京	—	ぷれいす東京	「Hの強化書・実践編」	ぷれいす東京	東京	2004	1-12
池上千寿子	HIV感染予防対策の効果に関する研究報告	ぷれいす東京	「ぷれいす東京年間活動報告書」2003	ぷれいす東京	東京	2004	43-47
ぷれいす東京	—	ぷれいす東京	「AFTER18の性の現状」	ぷれいす東京	東京	2003	1-4
徐淑子	安全な性行動とは	ぷれいす東京	「性と保健行動」	ぷれいす東京	東京	2003	1-6
徐淑子	「予防的保健行動」としてのコンドーム使用	ぷれいす東京	「性と保健行動」	ぷれいす東京	東京	2003	7-14
野坂祐子	保健行動とメンタルヘルス	ぷれいす東京	「性と保健行動」	ぷれいす東京	東京	2003	15-18
ぷれいす東京	—	池上千寿子 生島嗣 兵藤智佳	Let’s CONDOMing（映像）	ぷれいす東京	東京	2003	23分

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書　籍　名（冊子）	出版社名	出版地	出版年	ページ
ぷれいす東京	―	ぷれいす東京	“Sexual Health” ゲーム編	ぷれいす東京	東京	2003	1-30
池上千寿子	若者の保健行動の分析と有効な介入への試み	ぷれいす東京	「ぷれいす東京年間活動報告書」2002	ぷれいす東京	東京	2003	36-39
池上千寿子	禁欲・純潔の強調でなぜHIV/STDは防げないか	日本家族計画協会・家族計画国際協力財団・ぷれいす東京・人間と性教育研究協議会	「アメリカの禁欲主義教育と日本の性問題」	エイデル研究所	東京	2003	34-51

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
池上千寿子	HIV/AIDSの予防とケアに関するNGOの活動と役割	医学のあゆみ	213巻10号	951-955	2005
池上千寿子	AIDS予防戦略としてのLiving Together計画	最新医療情報誌アニムス	MBCForum特集号	25-32	2005
池上千寿子	HIVポジティブ、共に暮らす社会	健康教育	35巻16号	12-16	2004
池上千寿子	保健に関する予防介入と倫理的課題	日本ｴｲｽﾞ学会誌	6巻8号	138-140	2004
池上千寿子	「愛」にせかされる子どもたちへのケアを具体的に	体育科教育	52巻2号	15-16	2004
池上千寿子	世界のHIV/AIDSへの取り組み	季刊ｾｸｼｭｱﾘﾃｨ	第16号	24-30	2004
池上千寿子	セクシュアルヘルスのすすめ	日本衛生学雑誌	59巻2号	126	2004
池上千寿子	米の禁欲主義教育政策とブッシュの戦略	季刊「女も男も」	2003秋号	16-17	2003
池上千寿子	若者の性と保健行動および予防介入についての考察	日本ｴｲｽﾞ学会誌	5巻1号	48-54	2003
徐淑子	パートナーとの関係性の認知	日本性科学会雑誌	22巻1号	141	2004
東優子 徐淑子 兵藤智佳	若者のセクシュアル／リプロダクティブ・ヘルスに対するピア教育の理論と実践	日本ｴｲｽﾞ学会誌	6巻3号	129-132	2004
東優子	当事者に対する社会的支援－誰の，何を支援していくのか	モダンフィジシャン	25号（4）	435-438	2005
東優子	テレビドラマに描写される性の保健行動メッセージの分析	現代性教育研究月報	4月号	1-6	2004
東優子 池上清子 浅井春夫	世界と日本の性教育―どこに向かっているのか	季刊ｾｸｼｭｱﾘﾃｨ	第16号	6-23	2004
東優子	日本の若者と性の保健行動	家庭科教育	2003年9月号	13-17	2003
生島嗣他	ゲイバイセクシュアルを対象にしたWEB調査	日本ｴｲｽﾞ学会誌	7巻4号	333	2005
生島嗣他	HIV陽性者のストレスに関するWEB調査	日本ｴｲｽﾞ学会誌	7巻4号	449	2005
生島嗣他	バディ派遣サービスの利用者のニーズに関する考察	日本ｴｲｽﾞ学会誌	7巻4号	449	2005
生島嗣 若林チヒロ	HIV感染症をめぐる社会福祉分野の課題―就労を中心に	日本ｴｲｽﾞ学会誌	7巻3号	189-192	2005
生島嗣	Living Togetherという戦略	日本ｴｲｽﾞ学会誌	6巻3号	126-128	2004
生島嗣	男性とセックスをする男性」への支援をより有効なものに	保健婦雑誌	59巻9号	38-42	2003
長谷川博史	HIV検査・相談の現状と今後のあり方 －当事者の視点から見た検査-	日本ｴｲｽﾞ学会誌	7巻4号	291	2005

平成１７年度厚生労働科学研究費補助金
エイズ対策研究事業

HIV 感染予防対策の効果に関する研究

総括・分担研究報告書

発行日　　平成 18 年 3 月

主任研究者　池上千寿子
169-0075 新宿区高田馬場 4-22-46-304
Tel:03-3361-8964　Fax:03-3361-8835
E-mail:research@ptokyo.com